



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

新年のご挨拶

病院長 岡野 友宏

皆さまには素晴らしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本院は1977年に誕生しましたから、今年は創設35年目となります。

35という数字は私の愛用するウィキペディアによれば、「自然数また整数において 34 の次で 36 の前の数である」からはじまり、原子番号35の元素は臭素(Br)、大相撲第35代横綱は双葉山、米国第35代大統領はジョン・F・ケネディ、フラット35は最長35年長期固定金利の住宅ローン商品、等々。

臭素は臭化銀としてエックス線フィルムの感光材として利用されてきましたが、近年、医療ではデジタル化が進み、単純撮影からCT/MRI、核医学検査、超音波断層といった画像診断では液晶モニタで直接、デジタル画像として観察するようになりました。フィルムにプリントすることはありますが、エックス線フィルムの使用はめっきり減少しました。昭和の角聖、双葉山の69連勝は白鵬をもってしても、あと6勝届かなかったことは記憶に新しいところです。ケネディ大統領は私にとって中高時代の英雄ですが、その再来として期待された第44代オバマ大統領は米国医学雑誌NEJMに掲載した記事で医療改革を公約しました。そして昨年春、国民皆保険に道を開く医療改革法案を米下院で通過させました。数年後には大統領最大のこの公約が実現される予定です。個人の自由と責任を国是とし、医療も市場原理にまかせてきた米国はさすがに、キューバより高い乳児死亡率を看過できなくなったともいえます。住宅ローンは低金利で長期の借入、しかも融資額が多いにこしたことはありませんが、呉々も個人としてはローン破たんを招かないように、また住宅金融支援機構はその負債を国に転嫁しないようお願いしたいところです。

さて、大学の附属病院の役割について少々、お

話しさせていただきます。すでにこの歯科病院便りでも紹介させていただきましたが、医学部と歯学部はその設置の条件として附属病院を置くことが求められます。医学生、歯学生が医師、歯科医師になるために必要な臨床修練を行うため

です。医師・歯科医師国家試験は筆記試験ですから主として知識が問われます。国家試験で臨床能力を客観的に評価することには難しいことありますが、それ以上に医学部、歯学部には卒業時に相応しいとされる基本的な臨床能力を身につける場を確保し、実践し、それを評価する責任があります。国家試験に合格さえすれば医師、歯科医師となることを考えれば、これは社会に対する大学の責任でもあります。一方で大学病院を受診する患者さんは専門的で高度な医療を期待されます。したがって基本的な臨床能力を学生が獲得することと、専門的な医療を患者さんに供給することとを私たちは両立させなければなりません。一見、対立する二つのことではありますが、実は医療の根源に関わるという点では同じです。医療は患者さんと私たち専門職の協働作業であること、将来の医療を背負う若者たちが患者さんのご協力を得ながら、初歩的な医行為の一部を先輩の指導の下で実践させて頂く中で、医療のあるべき姿を学んでいくからです。これが私たちの病院の基本的な姿勢であります。そのことを患者さんはもとより、教員・職員には今一度、ご理解のほど、お願いいたします。

本年が皆さまによって良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。



看護部 紹介

口腔外科外来の紹介

口腔外科外来のスタッフは、看護師3名(看護師2名、准看護師1名)、補助者4名(パート2名隔日勤務)・クラーク1名の計8名の構成で行っています。

急性期歯科医療の中核病院として、全身管理を含めた最新の歯科医療の提供、そして質の高い、安全・安心な看護を提供することを目標として日々業務を行っています。患者層も乳幼児から高齢者までと幅が広く、一日の患者数は100～120人が受診し、疾患的には埋伏抜歯・顎変形症・口唇口蓋裂・のう胞・炎症・骨折などです。

業務は、外来患者の診療の準備、手術器材の準備、患者観察、クリニカルパスやチェックリストを使用し、手術・入院の説明を行っています。医療事故・感染防止を重視し関連部署、他科とも連絡

調整を行い患者満足の上昇に努めています。

口内炎がなおりにくい、痛みが続いているなど、症状のある方は、早めの受診をお勧め致します。どうぞ口腔外科外来まで足を運んでください。看護師が心を込めてご案内・説明をさせていただきます。

看護部 主任 松本百合子



口腔外科 外来 看護スタッフ

サプライセンターの紹介

サプライセンターは、「患者様に安全な医療器材を提供する」をモットーに、診療に使用させて頂く、器具・器材の洗浄・滅菌を行っている部署です。昨今、医療器具の衛生管理上の問題で、感染症を起こしたケースが、ニュースで取り上げられていました。患者様に使用する器具・器材は、正しい知識・技術に基づいた洗浄・消毒、そして滅菌が必要です。

当院では、使用済みの器材を、各診療科にて速やかに一次洗浄し、その後、地下2階にあるサプライセンターへ搬送となり、2次洗浄から滅菌までを私たちが行っています。また、滅菌が終了した器材も「間違いなく滅菌が来ているか？」を、化学的・生物学的に判定し、確認の取れた医療器材を再度各診療科へ供給しております。安心して治療を受けられるように、器材環境を整えることがサプライセンターの重要な役割と考えます。

最後に、当院は業務用エレベーターを有しておらず、器材搬送は出来る限り、診療時間前後に行う様、努めておりますが、診療時間内に若干ご一

緒させて戴く事もございます。心苦しくも、この場をお借りして、ご理解と御協力をお願い申し上げます。

看護部 岩崎 信雄



洗浄をした器具



滅菌をした器具



サプライセンター スタッフ

顎関節症科では口を開けたり閉めたりする時にアゴの音がある、大きく口を開けた時や食物を噛んだ時にアゴの痛みがある、あるいは口が大きく開かないなどの症状がある患者様の治療を行っています。このような症状がみられる顎関節症は咬み合わせの問題だけではなく、日常生活や仕事上の精神的緊張が続いたり、不安な気分や全然やる気がでない抑うつ的な気分に伴いアゴの筋肉の緊張が生じたり、様々な状況が影響し合って生ずると考えられています。その中で夜の歯軋りや昼間の噛みしめが顎関節症の症状を長引かせると言われていました。夜の歯軋りは同じ部屋で一緒に寝ている家族などの指摘で確認されますが、昼間の噛みしめは「昼間、歯を噛みしめていませんか？」と聞いても「いいえ」と答えることがほとんどです。しかし、「昼間、歯を触れていませんか？」と聞くと「はい」と答えることが多くなり、中には「口を閉じているときは、上下の歯が触れているのが当たり前だと思っていた」と答える患者様もいます。食事をしていたり、人と会話していたり、唾液を飲み込んだりするときは上下の歯が接触しますが、口を閉じてアゴを安静で楽にしている時は、上下の歯は接触していないものなのです。昼間、咀嚼や会話あるいは嚥下以外に日常生活で習慣的に行われている歯を接触させる癖を『上下歯列接触癖』と呼んでいます。この習癖を改めることによりアゴの症状が軽くなることや、消失することから、『上下歯列接触癖』は顎関節症の原因として注目を集めています。しかし、無意識で行われる『上下歯列接触癖』をどの程度正確に患者様が自覚しているのかには疑問があります。顎関節症科では、昭和大学歯学部医の倫理委員会の承認を受け、研究協力への同意の得られた患者様のご協力をいただき、『上下歯列接触癖測定システム』を新たに開発しました。

『上下歯列接触癖測定システム』は日常使用している市販の携帯電話のEメール機能を利用します。対象者の携帯電話に上下歯列接触の有無を問う質問事項を内容とするEメールがホストコンピューターから自動送信されます(図1)。



図1 上下歯列接触癖測定システム

Eメールを受信した対象者が上下歯列接触の有無を確認し、回答を返信メールで返信します。ホストコンピューターに返信メールデータが集積され、これらのデータが自動的に解析されます(図2)。

患者番号	性別	職業	年齢	開始日時	終了日時	咀嚼・嚥下時接触	上下歯列接触癖	
01	11.01	日	男	学生	18時	22時	10.4%	32.8%
02	11.02	月	女	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%
03	11.03	火	男	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%
04	11.04	水	女	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%
05	11.05	木	男	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%
06	11.06	金	女	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%
07	11.07	土	男	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%
08	11.08	日	女	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%
09	11.09	月	男	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%
10	11.10	火	女	会社員	8時	22時	10.4%	32.8%

図2 上下歯列接触癖の集計結果の1例

ご協力いただいた患者様9名に10日間連続で『上下歯列接触癖測定システム』を利用していたところ、咀嚼・嚥下などの歯の接触は平均10.4 ± 4.7%、上下歯列接触癖は32.8 ± 11.8%であることがわかりました(図3)。

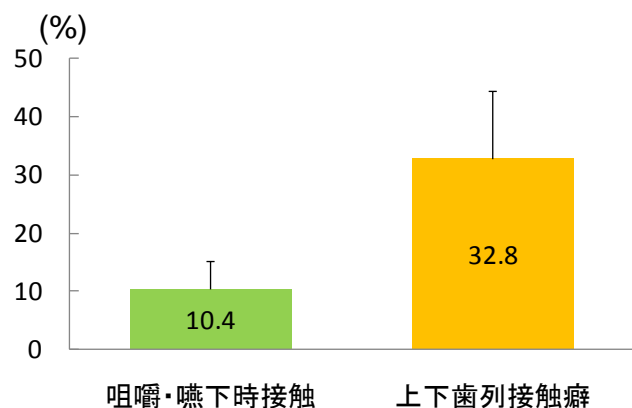


図3 咀嚼・嚥下などの歯の接触と上下歯列接触癖の割合

このように、アゴに症状のある患者様は通常の歯の接触以外に、無意識の歯の接触が約3倍あるのです。『上下歯列接触癖測定システム』により上下

歯列接触癖が行われる頻度を客観的にしめすことが可能となりましたので、今後、このシステムを実際の治療へ導入することを目指しております。

西村まさみ議員、歯科病院を訪問

参議院議員西村まさみ氏には1月18日、歯科病院を見学されました。西村議員には昭和大学病院を先立って訪問され、胸部心臓血管外科患者さんの手術前後における口腔ケアを見学し、歯科医師・歯科衛生士の介入の重要性を認識されました。歯科病院では総合歯科にて地域連携の在り方を中心に見学され、さらに美容歯科、口腔リハビリテーション科も見学されました。西村議員は歯科医師で、中野で開業されています。



前列左より、佐野副院長、西村まさみ議員、岡野病院長
後列左より、荒木田事務長、美容歯科 真鍋教授、昭和大学口腔ケアセンター長 向井教授

岡野病院長、日本学術会議で講演

岡野病院長(日本学術会議連携会員)には日本学術会議主催のシンポジウム「新たな歯科医療制度を考える」(平成22年12月17日)において「歯科医療：医療との共通点と特異点」について講演しました。これからの歯科医師は歯科診療室のみならず医科病棟や在宅を含めて、Health Care Professionalsの一員としてあらゆる場でOral Health Careを実践するとともに、専門性と質がともに高い歯科医療を国民に提供することが求められており、そのためには、従来の技術教育に加えて生命医

学・医療と社会性を重視した教育を行い、社会に範を示すべきことを強調しました。



編集後記

厳寒の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、アジア杯サッカーカタール戦凄かったですね。開催国というアウェイの地でドリブラー香川選手がやってきました。

一方、国内では、大相撲で白鵬が大鵬の記録に並ぶ6連覇の偉業を達成しました。白鵬すごいという気持ちと他の力士の頑張りが足りないんじゃないかという気持ちの両方が交錯した方が多くいらしたのではないのでしょうか…。お一つと、そうだ、今年はスポーツの話題を控えるのを昨年お約束したばかりでした。

国立感染症研究所は1月21日にインフルエンザ患者報告数がすべての都道府県で増えたと発表しました。10～16日に報告された患者数は5万9832人と前週の2.4倍に急増し、26県で1医療機関当たりの患者報告数が10人を超え、流行が本格化してきたそうです。各自治体は注意報を発令し、手洗いとうがいの徹底を呼びかけています。

皆様、どうぞ手洗いとうがいはもちろんのこと、栄養摂取、十分な睡眠、お部屋の加湿など、どうぞご配慮下さい。本年も歯科病院は健口を通して皆様のご健康に貢献することに邁進してまいります

読者の皆様、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(K.T)

